

## 高齢がん患者とその家族の就労継続に配慮した看護師の支援

仁科 聖子<sup>1)</sup>

### 要旨

本研究は高齢がん患者を介護する家族の就労継続に配慮した看護師の支援を明らかにした。看護師が経験した高齢がん患者と家族介護者への支援について半構造化面接により質的帰納的方法で分析した。その結果、高齢がん患者とその家族に対して看護師は、【介護者が就労継続できるよう助言】し、【介護者が休養できるよう調整】するという支援をしていた。【本人の状態・介護者の就労に合わせた時間調整】、【本人の病状の変化に合わせた介護者の不安軽減】、高齢者の【最期の時期を予測し家族が悔いを残さないよう助言】するという病院と訪問看護師は共通した支援を行っていた。そのうち病院看護師は、【退院に向けてがんの症状に合わせた生活環境の調整】、【介護者の就労を含めた介護力を見極め多職種と調整】などを行っていた。訪問看護師は【がんの症状への対処方法を介護者へ助言】、【介護者家族の生活を維持できるよう配慮】するという支援をしていた。高齢がん患者とその家族の就労継続を支えるためには、がん患者の症状緩和に加え、介護者が就労を継続できるよう生活全体をとらえた視点で支援することが重要であることが示唆された。

キーワード：高齢がん患者、家族介護者、就労介護者、家族看護

## Nursing support for elderly cancer patients and their families in caregiving and employment

Seisen Jogakuin College  
-Faculty of Nursing Gerontological Nursing-

Nishina Kiyoko<sup>1)</sup>

### Abstract

This study identified ways that nurses provide support to family caregivers of older cancer patients that helped the caregivers remain employed. Nurses' experiences were analyzed through semi-structured interviews using a qualitative inductive method. It was found that these nurses provided support by "advising caregivers to continue working" and "coordinating with caregivers to allow them to take time off". Types of support common to both hospital-based and home-visiting nurses included "keeping flexible hours to accommodate patients' conditions and caregivers' employment", "reducing caregivers' anxiety about changes in patients' medical conditions", and "anticipating patients' last days and giving advice so that families would not have regrets". Hospital-based nurses provided support such as "adjusting patients' living environments based on their cancer symptoms, with an eye toward their eventual discharge" and "assessing caregivers' ability to care for the patient, including any impact on their employment, and coordinating with other professionals as needed". Home-visiting nurses provided support by "advising caregivers on how to manage cancer symptoms" and "considering ways to help caregiving families maintain their livelihoods". These findings suggest the importance of providing support that considers the lives of caregivers from a holistic perspective, enabling them to continue working in addition to alleviating patients' cancer symptoms.

1) 清泉女学院大学看護学部

**Key words :** elderly cancer patients, family caregivers, employment status of home caregivers, family nursing

## I. はじめに

我が国は高齢化率 28.9%（厚生労働省，2022）と高齢化が急速に進み，高齢者のがん罹患率も増加している．がんは高齢になるほど罹患しやすく，65 歳以上のがん患者の割合は 86.4%（国立がん研究センター，2022）を占めている．今日，医学の進歩により高齢であってもがんの治療が可能となっている．がんの治療は，手術，化学療法，ホルモン療法，放射線療法などが行われており，がん患者は長期にわたって病気と付き合い生活している状況である．高齢者も本人・家族の意思決定のもとでがん治療が行われている．

しかし，高齢がん患者は，成人患者と異なり予備力，回復力が低下している．高齢者はがん治療による影響から体力低下，認知機能障害などが出現し，ADL の低下，QOL の低下をきたす可能性がある．高齢がん患者の家族介護者の介護の特徴として，治療期には，外来の化学療法，放射線療法の通院介助，終末期においては，がんの症状の進行に伴い，日常生活の介護による介護負担が増強し，在宅での介護が困難になった場合には，緩和ケア病棟などの施設を検討しなければならない．高齢がん患者の治療のプロセスで介護と就労の両立が困難になる可能性がある

家族介護者の就労の現状については，346 万 3 千人（総務省，2017）が就労しながら介護しており，年々増加傾向にある．介護のために離職・転職せざるを得ない者の数が増加しており，就労世代が介護している現状においては，労働力不足が懸念されている．

そこで，本研究では高齢がん患者を介護する家族の就労継続に配慮した看護師の支援を明らかにすることを目的とした．今後，高齢がん患者を介護している家族が就労を継続しやすい環境を整え，

家族介護者の看護師の支援方法を検討するための資料となる．

## II. 研究方法

### 1. 研究協力者

高齢がん患者を介護する家族の就労継続に配慮した看護師の支援を明らかにするために，東京都内のがん支援センター（がん情報サービスサイト，2019），東京都訪問看護教育ステーション（東京都福祉保健局，2019）の看護師を研究協力者とした．

### 2. 研究期間

2019 年 10 月～2020 年 1 月までである．

### 3. 研究方法

インタビューは，高齢がん患者に対する看護師の支援内容を具体的に聞き取るためにインタビューガイドを用いた．看護師が経験した事例に沿って患者の疾患・治療，家族介護者の介護・就労を含めた支援について半構造化面接を行った．インタビューガイドは，介護者の健康状態，睡眠状況，メンタルヘルス，就労状況，介護と仕事の両立に関して把握していること，看護師として患者・家族に対して実施した支援内容について具体的に聞き取った．インタビューは研究協力者が支援した在宅療養中の高齢がん患者と就労介護者の事例について，患者の属性，疾患・治療方法・経過，家族介護者の介護と就労を関連させて聞き取った．

### 4. 分析方法

インタビューの録音したデータを逐語録とし成文化し，高齢がん患者の治療，家族の介護・仕事に関する看護師の支援内容を質的帰納的方法により分析した．

### Ⅲ. 倫理的配慮

本研究は、防衛医科大学校倫理委員会に諮り、学校長の承認（4057）を得た後から研究を開始した。

研究協力者へのインタビュー協力の依頼を郵送にて行い、同意を得るために説明文書と同意書を用いて対象者に文書と口頭で説明した。同意が得られた場合は、同意書に署名をしてもらった後、インタビューを実施した。

### Ⅳ. 結果

#### 1. 研究協力者の概要

研究協力者は看護師7名（病院看護師4名，訪問看護師3名）で全員女性，年齢は38～54歳，平均45.4歳であった。経験年数は16～25年，平均20.3年であった。

#### 2. 語られた事例の概要

看護師が支援した就労介護者の年齢は，40歳前半～70歳前半，続柄は配偶者5名（妻4名，夫1名），子供（娘2名）であった。就労状況は会社員3名，美容師2名，保育園勤務1名，自営業1名であった。介護協力者は7名中5名に協力者がいた。支援した高齢がん患者・家族（就労介護者）が介護する高齢がん患者は平均75.3歳，男性4名，女性3名であり，主となる疾患であるがんの部位は，胃，総胆管，膵，肺，大腸，喉頭がん，肝，歯肉であり，脊椎転移している者もいた。がんの治療は，外科的手術，化学療法，放射線療法，中心静脈栄養，胃瘻造設，ドレーン管理，緩和ケアとして疼痛管理を行っていた。

高齢がん患者と家族への看護師の支援に関するインタビューの結果は，病院看護師と訪問看護師の支援内容が異なるため分けて示す。以下，コード〔 〕，カテゴリーを【 】で示す。

#### 3. 病院看護師の支援

病院看護師の支援に関するコードは 29，カテゴリーが 9 抽出された。本人・家族の生活に配慮した病院看護師の支援（表 1）では，家族介護者

への就労継続のための支援については，【介護者が就労継続できるよう助言】することとして〔介護と就労を両立するために介護者へ勤務の調整方法について助言する〕，【介護者の休養できるよう調整】することでは，〔仕事が手につかなくなった時期に休息をとり仕事を調整するよう助言する〕などの支援をしていた。【本人の状態・介護者の就労に合わせた時間調整】では，〔介護者の就労状況に合わせて面談の時間を調整する〕〔介護者の要望に沿ってメールで高齢がん患者の状況や話し合いの内容を報告する〕という働きかけをしていた。

【本人の病状の変化に合わせた介護者の不安軽減】では，〔高齢がん患者の気持ちの揺れに動揺する家族の気持ちを受け止め支持的に関わる〕など本人と家族の気持ちを支持していた。

高齢者の最期の時期が近づいた時には【最期の時期を予測し家族が悔いを残さないよう助言】することとして〔最期の時期が近づいていることを察知して悔いが残らないよう家族がそばにいる時間を持てるよう働きかける〕〔家族が無力感を感じないよう家族に担えることは何か考え退院調整を行う〕などの働きかけを行っていた。

高齢がん患者が在宅で生活できるよう病院看護師は，【本人の意思を尊重して退院に備え調整】として〔本人の意思を尊重して排泄の介助を行うためにヘルパーを組み入れる〕という援助を行っていた。

病院看護師のみに示された支援は，高齢がん患者の状態に合わせて【がんの症状に合わせた生活環境の調整】として〔転移による骨折のリスクに備えて生活スタイルを変えるよう提案する〕〔高齢がん患者の症状マネジメント（息苦しさ，痛みなど）に合わせ住環境の整備を行う〕など，がんの症状に沿った環境の調整を行っていた。【介護環境を整えるためのサービス調整】については，〔福祉用具の準備と退院後に介護できるよう手続きの準備を行う〕〔理学療法士と相談し福祉用具

を導入する] など多職種と協力しながら高齢者の状態に合わせたサービスの調整をしていた。

【介護者の就労を含めて介護力を見極め多職種と調整】では、[介護者の仕事を含めた介護力を見極めて支援方法を検討して申し送る] [介護へのイメージ・サービスに期待することを訪問看護師に引き継ぎ介護者が離職を選択しないよう働きかける] [介護者の負担を予測して病状の進行に合わせて訪問看護師に依頼する] [夜間の誰も来ない時間の対応方法についてヘルパーの時間を調整・看護小規模多機能の利用を勧める] などの対応を行っていた。

#### 4. 訪問看護師の支援

訪問看護師の支援に関するコードは 20, カテゴリーが 8 抽出された。訪問看護師の支援 (表 2) では、【介護者が就労継続できるよう助言】することとしては、[仕事を継続できるよう介護休暇を取る時期を調整する] など関わりをしていた。

【介護者が休養できるよう調整】では、働いている介護者の状況に応じて [ケアを看護師に任せて介護者自身が気分転換を図る], [介護者が仕事で忙しい時期に合わせて緩和ケア病棟にレスパイトも兼ねて調整する] をしていた。【本人の状態・介護者の就労に合わせた時間調整】として [介護者の帰宅時間に合わせて話を聞き治療の方向性を決める] [介護者の医療処置による負担を減らすため休日に点滴を交換しなくて済むよう対処する] など介護者の負担を減らす配慮をしていた。

【本人の病状の変化に合わせた介護者の不安軽減】では、介護者の不安を軽減するために [介護者が不在の時間帯に様子確認も含めて支援する], [介護者の帰宅時間に合わせて訪問し日常生活を維持できるようにして安心感を与える] などの援助をしていた。【本人の意思を尊重して退院に備え調整】することとして、本人と家族のために [シャワー浴介助の練習をして退院に備える] という支援をしていた。

高齢者が最期を迎えた後も【介護者家族の生活

を維持できるよう配慮】することとして、[高齢がん患者のケアを助け介護者が家族の料理や子供の世話ができるよう働きかける] という家族への働きかけを行っていた。

訪問看護師の支援のみで示された結果は、高齢者の【がんの症状に対する介護者への対処方法の助言】としては、[怖くてケアできない介護者に対して一緒にケアを行うことにより対処できるよう促す] など、高齢者のケアに参加できるよう働きかけていた。【最期の時期を予測し家族が悔いを残さないよう助言】することとして、[具合が悪くなることを予測して仕事の休みがとれる状況か考えるよう働きかける] などの援助を行っていた。

## V. 考察

### 1. 病院看護師と訪問看護師の支援

#### 高齢がん患者を介護する家族の就労継続に配慮した支援の共通点

病院看護師と訪問看護師の支援では、両者とも高齢がん患者の意思を尊重しつつ、【介護者が就労継続できるよう助言】し、【本人の状態・介護者の就労に合わせた時間調整】し、【介護者が休養できるよう調整】するという共通した支援を行っていた。

深山, 他 (2020) は、介護者が就労継続するためのケアマネジャーの支援として「【不在時の環境調整】【負担軽減支援】【心理的支援】【チーム間の関係調整】」というカテゴリーを挙げ「介護者の就労継続のために、不在時に予測される課題や心身の負担軽減などの支援のほか、心理的支援やチーム間の関係調整へと視点を広げ、継続的な支援」をしていた。本研究は先行研究の結果と同様に看護師は、高齢がん患者が在宅生活を維持できるように、がん患者の状態と介護者の就労の状況に合わせ介護者の負担を軽減して、就労を継続できるよう患者・家族の生活全体をとらえて支援したことが示された。

本研究では、高齢がん患者の病状と家族の生活の全体をとらえ、家族介護者の就労に配慮した看護師の関わりをしていたことが先行研究ではみられない結果であった。

高齢がん患者の場合は特に、症状に合わせた介護者への支援が必要となり、ケアマネジャーなど多職種との連携が、より重要になると考える。がん患者に関して河瀬、他（2017）は、「患者の状態が悪化する中で感じる沈痛な思い」、「様々な身体症状の対応に迫られる」、「24 時間患者と生活を共にする疲労」があり、在宅での生活を困難にさせる家族の状況がある。このような患者・家族の不安を軽減するためには、病院、在宅において医療者の支援が不可欠である。在宅においては医療者を中心に介護職、介護のサービス提供者との協働・連携が必要である。

高齢がん患者の家族介護者は、加齢に伴い要介護状態になった高齢者の介護に比べ、がんの症状による変化が顕著で、介護および治療、緩和医療に関わる困難が生じる。介護の困難さが増強すると就労している介護者は、就労と両立することが困難になる。そのため、高齢がん患者だけでなく、家族介護者の状況にも配慮した関わりが重要であり、看護師の患者を取り巻く環境を捉えられる看護師の視点が必要であると考えられる。

高齢がん患者と家族介護者の基盤となる支援としては、高齢がん患者【本人の意思を尊重した退院に備え調整】をし、【本人の病状の変化に合わせて介護者の不安軽減】を図り、【介護者が休養できるよう調整】し、高齢者の【最期の時期を予測し家族が悔いを残さないよう助言】していた。

高齢がん患者の療養では、がんによる症状の出現により患者自身の苦痛に伴い、家族の不安も増強する。それを軽減するために医療者を中心とした支援が不可欠である。特に、終末期がん患者の家族に対する苦痛、不安の軽減に関する支援では、家族の力に着目した中村、他（2019）の研究で「近づく死に対して療養者と家族が抱える不安な

気持ちを受け止める」、「家族の生活を把握し、尊重する」ことを示していた。先行研究と同様に本研究で示された介護者の不安を軽減する、介護者の健康状態を気遣い休養できるよう調整するという支援は、家族を含めた介護環境を整える看護として重要であると考えられる。

## 2. 病院看護師と訪問看護師の支援の相違

病院看護師の支援の特徴として高齢がん患者とその家族の病院看護師は、【がんの症状に合わせた生活環境の調整】、【介護環境を整えるためのサービス調整】、【介護者の就労を含めた介護力を見極め多職種と調整】が病院看護師の支援のみで得られた結果であった。この結果から病院看護師は、がんの治療を終えた患者が、退院に向けて在宅での生活の準備ができるようがん患者と家族の就労を含めた介護力を見極め助言、調整を中心に行っていることが特徴であると考えられる。

家族のアセスメントとして吉岡、他（2018）は、病棟看護師の役割として「介護者の力に見合った対処方法の提案やケアの介入をする」、中村、他（2019）は「家族を尊重し、自信を与えられるように一緒に経験を重ねる」というカテゴリーで「家族の生活を把握し、尊重する」という結果を示していた。以上の先行研究は、家族の生活を含めた環境を整えるという本研究と共通した支援が示されていた。特に、主介護者が就労している場合は、就労状況も含めて介護力をアセスメントする必要であると考えられる。

訪問看護師の支援では、【がんの症状の対処方法を介護者へ助言】、【介護者家族の生活を維持できるように配慮】というカテゴリーが訪問看護師で得られた結果であった。この結果から、訪問看護師は家族介護者による高齢がん患者の在宅生活を維持できるように、就労を含めた介護者の生活、他の家族への配慮も行っていることが特徴である。介護者と就労者としての役割に加え、家族の親としての役割を意識した支援であると考えられる。まさに患者を取り巻く包括的な看護支援が実施されて

いる結果と言える。

高齢がん患者とその家族の就労に配慮した支援は、病院看護師と訪問看護師でおおむね共通していた。しかし、病院看護師は退院移行期において、退院後の生活がスムーズに移行できるように関わり、訪問看護師は在宅という生活の場で最期の時まで支援するという違いがある。看護師は看護を提供する場の違いによらず、就労を含めた家族をチームの一員として、病院看護師・訪問看護師、関係職種が協働・連携し、継続した看護を提供できることが不可欠であると考える。

高齢がん患者と就労介護者の支援は、高齢がん患者と家族も含めた生活全体をとらえて支援する必要性があり、医療機関、在宅医療において支援体制を整備する必要性が示唆された。

## VI. 結論

高齢がん患者とその家族の就労継続に配慮して看護師は、【介護者が就労継続できるよう助言】し、【介護者が休養できるよう調整】するという支援をしていた。【本人の状態・介護者の就労に合わせた時間調整】、【本人の病状の変化に合わせた介護者の不安軽減】、高齢者の【最期の時期を予測し家族が悔いを残さないよう助言】するという病院看護師と訪問看護師は共通した支援を行っていた。

病院看護師の支援の特徴は、在宅へ移行するために【がんの症状に合わせた生活環境の調整】、【介護者の就労を含めた介護力を見極め多職種と調整】をしていた。訪問看護師では【がんの症状への対処方法を介護者へ助言】、【介護者家族の生活を維持できるよう配慮】するというがんの病状に合わせた支援を行っていた。病院看護師は退院後の生活がスムーズに移行できるように関わり、訪問看護師は生活の場において最期まで高齢がん患者とその家族の生活を支援するという違いがあった。

## 謝辞

本研究の実施に際して、ご協力をいただきました病院のがん支援センターならびに退院支援部門、訪問看護ステーションの看護師の方々に感謝申し上げます。なお、本研究は公益財団法人総合健康推進財団、平成30年度第35回一般研究奨励研究助成を受け実施した。また、本研究は助成研究の一部を第40回日本看護科学学会学術集会で発表し、加筆・修正したものである。

## 利益相反

本研究における利益相反は存在しない。

## 引用文献

- 深山華織, 河野あゆみ, 白澤政和, 他(2020). 介護支援専門員による家族介護者の就労継続のための支援. ケアマネジメント学, 19, 67-78
- がん情報サービスサイト  
(2019). <https://hospdb.ganjoho.jp/kyoten/>, 2019年3月25日.
- 河瀬希代美, 稲村直子, 小貫恵理佳, 他(2017). 積極的治療終了後に在宅生活を中断したがん患者の家族が抱える困難, Palliative Care Research, 12(2), 194-202.
- 国立がん研究センター(2022). がん情報サービス「がん登録・統計」. [https://ganjoho.jp/reg\\_stat/statistics/dl/index.html](https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/dl/index.html), 2022年10月28日.
- 厚生労働省: 高齢社会白書(2022). [https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2022/zenbun/pdf/1s1s\\_01.pdf/](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2022/zenbun/pdf/1s1s_01.pdf/), 2022年10月28日.
- 中村美由紀, 沖中由美 (2019). 在宅で介護する終末期がん患者の家族の力を向上させる訪問看護師の援助, ホスピスケアと在宅ケア, 27(1), 11-16.
- 総務省統計局(2017). 平成29年度就業構造基本調査:

<https://www.stat.go.jp/data/shugyou/2017/pdf/kgaiyou.pdf>, 2022年10月28日.

東京都福祉保健局(2019).東京都訪問看護教育ステーション.

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kourei/hoken/houkan/houkankyoiiku.html>,  
2019年3月25日.

吉岡さおり, 片山はるみ (2018).終末期がん患者の在宅療養移行支援に対する病棟看護師の役割の認識, 日本看護科学会誌, 38, 133-141.

表1 高齢がん患者とその家族の就労継続に配慮した病院看護師の支援

カテゴリー	コード
介護者が就労継続 できるよう助言	介護と就労を両立するために介護者へ勤務の調整方法について助言する
	患者を看取った後の生活を含め家族が仕事を辞めないで済むような支援をする
	副介護者と協力して仕事の調整をして両立できるよう助言する
本人の状態・介護者の就労 に合わせた時間調整	介護者の就労状況に合わせて面談の時間を調整する
	介護者の要望に沿ってメールで高齢者がん患者の状況や話し合いの内容を報告する
介護者が休養できるよ う調整	仕事が手につかなくなった時期に休息をとり仕事を調整するよう助言する
	不眠を訴えた家族に高齢がん患者にとって大事な時期であることを伝え仕事の調整を促す
本人の病状の変化に合わせ た介護者の不安軽減	高齢がん患者の気持ちの揺れに動揺する家族の気持ちを受け止め支持的に関わる
	本人の帰りたい気持ちと介護できないかもしれないもどかしさを抱えている家族の不安を軽減できるよう方法を考えながら支援する
本人の意思を尊重して 退院に備え調整	本人の意思を尊重して排泄の介助を行うためにヘルパーを組み入れる
最期の時期を予測し家族が 悔いを残さないよう助言	最期の時期が近づいていることを察知して悔いが残らないよう家族がそばにいる時間を持つよう働きかける
	看取りの覚悟をして家族の望みを叶えられるよう対処する
	家族が無力感を感じないよう家族に担えることは何か考え退院調整を行う
がんの症状に合わせた 生活環境の調整	転移による骨折のリスクに備えて生活スタイルを変えるよう提案する
	がんの症状と家族の生活を合わせて生活環境を調整する
	疼痛管理と在宅での介護に関して助言する
	高齢がん患者の症状マネジメント（息苦しさ、痛みなど）に合わせ住環境の整備を行う
	高齢がん患者の入院を機に療養方法を検討する
介護環境を整えるための サービス調整	がんの進行度・症状マネジメントについては主として誰がマネジメントするか擦り合わせをする
	福祉用具を導入するよう助言する
	介護環境を整えるため介護保険申請に関する助言をする
	理学療法士と相談し福祉用具を導入する
介護者の就労を含めた介護 力を見極め多職種と調整	福祉用具の準備と退院後に介護できるよう手続きの準備を行う
	介護者の仕事を含めた介護力を見極めて支援方法を検討して申し送る
	介護へのイメージ・サービスに期待することを訪問看護師に引き継ぎ介護者が離職を選択しないよう働きかける
	本人の病状に合わせて介護と仕事を調整できるよう家族のサポート体制などを確認した上で在宅に引き継ぐ
	介護者の負担を予測して病状の進行に合わせて訪問看護師に依頼する
-	ソーシャルワーカーと相談して退院先を調整する
	夜間の誰も来ない時間の対応方法についてヘルパーの時間を調整・看護小規模多機能の利用を勧める

表2 高齢がん患者とその家族の就労継続に配慮した訪問看護師の支援

カテゴリー	コード
介護者が就労継続 できるよう助言	看護師の助言と職場の配慮により勤務の調整をする
	仕事を継続できるよう介護休暇を取る時期を調整する
本人の状態・介護者の 就労に合わせた時間調整	介護者の帰宅時間に合わせて話を聞き治療の方向性を決める
	介護者の仕事の時間に合わせて訪問看護を提供する
	介護者の医療処置による負担を減らすため休日に点滴を交換しなくて済むよう対処する
	介護者の休みの日に合わせて訪問して高齢がん患者に関して情報共有する
介護者が休養できるよう調整	ケアを看護師に任せて介護者自身が気分転換を図る
	介護者が仕事で忙しい時期に合わせて緩和ケア病棟にレスパイトも兼ねて調整する
本人の病状の変化に合わせた 介護者の不安軽減	介護者が不在の時間帯に様子確認も含めて支援する
	介護者が仕事でいない時間をサービスで埋め不安がないよう対処する
	介護者の帰宅時間に合わせて訪問し日常生活を維持できるようにして安心感を与える
本人の意思を尊重して 退院に備え調整	シャワー浴介助の練習をして退院に備える
最期の時期を予測し家族が 悔いを残さないよう助言	臨死期に近くなり介護者が仕事の調整ができるよう働きかける
	具合が悪くなることを予測して仕事の休みがとれる状況か考えるよう働きかける
	専門家の視点から早めに最期の時期を予測して声かけする
がんの症状の対処方法を 介護者へ助言	高齢がん患者の痛みの対応ができない介護者のために夜間対応をする
	怖くてケアできない介護者に対して一緒にケアを行うことにより対処できるよう促す
	介護者が副介護者と協力して座薬を入れるなどの処置を自立して行えるようにする
	本人が家族のケアを受け入れ介護者が役割と感じられるよう働きかける
介護者家族の生活を維持 できるよう配慮	高齢がん患者のケアを助け介護者が家族の料理や子供の世話ができるよう働きかける